今月の窓

食教育からの日本農業再建

我が国農業の存在意義に対する国民の理解獲得の必要性がことあるごとに強調される一方で,大々的な直接支払いを導入したEUのベースには国民の農業に対するしっかりとした理解が存在していることが指摘されている。両者の理解・認識に大きな差があることは率直に認めざるを得ないが，これは歴史，文化等の積み重ねの中から発生してきたものであり，一朝一夕にこの溝を埋めていくことはかなうべくもない。こうした中で特に大きく影響していると考えられるのが教育の違いである。

今，我が国では科学技術の急速な進歩に対応していくための英才教育が強化されつつある反面，学級崩壊がアチコチで噴出している。その原因としてさまざまのことが指摘はされているが，筆者には子供の能力をすべて数値でしか判断しない教育のシステムそのものに根本的原因があるように思えてならない。子供は本来皆，個性的な存在なのであり，とても一つのメジャーだけで測り切れるものではなく，総合的にその能力が評価されてこそ子供も生き生きと成長できるのであろう。それが現状は考える能力よりは正解として期待された答えを回答する能力，すなわち記憶力に偏重した評価システムとなっているのであり，コンピューターが発達した現在，こうした能力は極力パソコンにでも代替させればいいのである。むしろ体をも含めた感受性をもっともっと重視し，それぞれの個性の違いを尊重し，個性を大いに伸ばし評価してやることこそが肝心なのである。あわせて我が国の歴史・文化・伝統等に対する理解促進なり徳育なり，日本人としてのアイデンティティーをしっかりと受け止めていけるような教育が必要なのであって，これこそが国際化時代に求められる教育なのである。

話はいささか飛躍するが，スウェーデン，ドイツでは東西の壁崩壊による緊張緩和にともない徴兵制度を改革し，兵隊数の減少を決定したが，制度の大枠は残して，兵役以外に介護福祉への就労を組み込み，兵役と介護福祉のいずれかを選択できる制度に改革されたという。高齢化が進行し，所得格差が拡大する現在，国を守るには軍備だけではなく，社会的弱者への福祉強化が不可欠であるという認識に立ったものであろう。若い時に体を捧げて介護福祉等に取り組み，直接国に貢献することを義務づけたことは最高の教育であるとも言えよう。我が国の若者が生き甲斐も社会的目的も持つことができずに，目前の豊かさに浸りきっている様と比較すれば，我が国の将来はとてもこうした国に及びもつかないことになるのではないかと心配でならない。

振り返ってみれば我が国の伝統的な食事が失われた大きな原因は学校給食にあった。今，食生活の見直し等をつうじて日本農業の存在意義についての国民の理解を促進していくためには，この教訓を生かして給食による日本型食生活の経験蓄積が不可欠である。急がば回れで，20年，50年の長期的課題として食教育にじっくりと取り組んでいくことが必要である。

（(株)農林中金総合研究所取締役基礎研究部長　蔦谷栄一・つたやえいいち）